

金融高度化セミナー（M&A・事業承継支援等）

——参加者から「中小企業向け経営支援は金融機関の使命」との声も

▼日本銀行金融機構局金融高度化センターは、二〇一四年四月十四日に、「中小企業における経営支援ニーズと金融機関の対応（M&A・事業承継支援、ビジネスマッチング等）」と題する金融高度化セミナーを、千代田区で開催しました。参加者数は約四六〇名でした。

▼金融高度化セミナーは、日本銀行の取引先金融機関を対象に開催しているものです。全国の金融機関を対象にした大規模なセミナーは、金融高度化センター開設（二〇〇五年）以来、年平均二回のペースで開催されています。

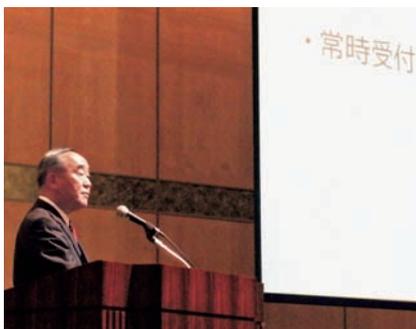
今回のセミナーでは、よねたに米谷達哉金



産業構造の転換における金融機関の役割について語る柳川東大教授

融高度化センター長による挨拶・基調講演の後、柳川範之氏（東京大学教授）、増田寿幸氏（京都信用金庫理事長）、三宅卓すく氏（日本M&Aセンター社長）による講演と金融機関の実務家によるパネル・ディスカッションが行われました。

▼「地域イノベーション推進における金融機関の役割」について講演した柳川氏は、①グローバル化とIT化の進展により、従来のピラミッド型の産業構造が崩れ、今後、産業および企業の新しい組み合わせが生じること、②回りの利く中小企業こそがそうした変化に対応しやすく、例えば、地域の中小企業が直接海外



京都信用金庫のビジネスマッチングについて語る増田理事長



地域金融機関のM&Aについて語る日本M&Aセンター三宅社長

とつながるといった新しい組み合わせによるイノベーションが期待できること、③地域金融機関がそうした動きを支援しやすい立場にあること、を説明しました。

▼「京都信用金庫のビジネスマッチング」について講演した増田氏は、営業店の担当者が販売先や仕入先を紹介するビジネスマッチングを行うことにより、取引先企業の課題解決とともに、①それを通じた企業の実態把握が資金供給業務に活用できること、②営業店担当者の人材育成につながることを、の重要性を具体的なエピソードを紹介しながら説明しました。

▼「地域金融機関のM&A」について講演した三宅氏は、①新しいビジネスの展開を考える「買い手企業」

後継者難・先行き不安を抱える「売り手企業」のいずれもが増加していること、②もっとも、企業の経営者が、自社の売却ニーズを金融機関に示すことには抵抗感があること、③このため、金融機関の支店長は、中小企業の社長がふと漏らす愚痴等に含まれる企業売却ニーズを捉えられようアンテナを高くする必要があらることを説明しました。

▼パネル・ディスカッションには、小池政弘氏（広島銀行法人営業部長）、小西睦人氏（西武信用金庫業務推進企画部副部長）、齋藤哲さとし氏（東邦銀行法人営業部長）、鈴木庸夫つねお氏（静銀経営コンサルディング社長）、吉村茂樹氏（北陸銀行法人・公共営業部副部長）がパネリストと



中小企業の経営支援について、熱いメッセージが語られた パネル・ディスカッション

して登壇されました（モデレーターは米谷金融高度化センター長）。

M & Aに関しては、鈴木氏から、静岡県内の全金融機関が協力して対応する「静岡県事業引継ぎ支援センター」の説明があったほか、小池氏から「怒られたり、泣かれたりしながらM & Aに取り組んだエピソード」が紹介されました。また、企業の経営支援に当たって、小西氏から「顧客の決算の集合体が金融機関の評価」との考え方が示されたほか、齋藤氏からは取引先企業毎にテーマを決めてアプローチする「経営課題提案型営業」の説明がありました。なお、事業承継支援について説明した吉村氏は、「一七年間携わったこの業務が今では天職。有意義な仕事に就けたことに感謝しています」と話されました。

▼企業の経営支援に対するパネリストの熱いメッセージを聞いた参加者からは、「金融機関の使命を再認識した」、「胸が熱くなった」との感想も聞かれました。

▼以上のセミナーの講演およびパネル・ディスカッションの要旨・資料は、日本銀行HPの「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

改良五千円券の発行を開始

（二〇一四年五月十二日）

▼日本銀行では、目の不自由な方々にとって、日本銀行券がより使いやすいものとなるよう、改良を施した五千円券の発行を五月十二日から開始しました。

▼日本銀行の岩田規久男副総裁は、発行開始にあたって同月八日に開催された「五千円券改良記念式典」（独立行政法人国立印刷局主催）に出席し、「改良五千円券が発行され、目の不自由な方々にとって、お札の種類が一層判別しやすくなったことは、日本銀行としても、大きな喜びです。今後も改良五千円券への切り替えが円滑に進むよう努力したいと考えています」と述べました。



「五千円券改良記念式典」で挨拶する岩田副総裁

「日銀春休み親子見学会 二〇一四」を開催

▼日本銀行本店では、四月一日（火）、三日（木）の二日間にわたり、小学校四〜六年生および中学生のお子さまとその保護者の方を対象に、「日銀春休み親子見学会二〇一四」（協力：金融広報中央委員会）を開催しました。



1億円の重さを体験

▼今回の見学会では、本店見学、体験学習など約二時間のプログラムにご参加いただき、「楽しかった」、「子どものためになった」という感想が寄せられました。

*重要文化財に指定されている本店本館（旧地下金庫エリアなど）や新館（一階営業場）の見学、日本銀行の仕事や金融経済に関するクイズ、お札に施さ

れている偽造防止技術の紹介、一億円の重さ・お札の数え方体験。

▼毎回ご好評をいただいておりますこの親子見学会の次回の開催は、八月四日（月）〜八日（金）を予定しております。「日銀って何をしているところ?」「日銀ってどんなところ?」そのようなお子さまの好奇心にお応えします。どうぞご期待ください。

参加は無料です。お申し込み方法も含め、詳しくは日本銀行HPでご案内いたします。皆さま方のお越しを心よりお待ちしております。



親子で参加「お札の数え方」体験

編集後記

■今回のキーワードは「伝える」。女子バレーでは監督から選手に「戦術と情熱」を、わらび座では舞台から観客に「感動」を、伝えています。

「伝える」とは、決して一方的な行為ではなく、「共感」があって初めて成り立つこと。今回の取材でも、「バレーボールは相手の気持ちになってパスをつなぐスポーツ。監督も選手と共通の目標を持つチームメートの視線が大切」と語る真鍋監督。わらび座では、平賀源内役の三重野さんが「舞台は一つのコミュニケーション。毎回お客さまから違う反応があり元気づけられる」と笑顔を見せます。

今回は、金融広報中央委員会の仕事を紹介させて頂きました。この仕事も私たちから国民の方々に「お金と生活の知恵」を「伝える」仕事です。一方的に情報を発信しても、相手に受け止めてもらえなければ、行動の変化につながりません。受け取りやすい「パス」となるよう、相手の立場に立って情報発信に工夫を凝らすなど、日々悪戦苦闘しています。(丹治)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(<http://www.boj.or.jp/announcements/kohonichigin/index.htm/>)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2014年夏号
編集・発行人 丹治芳樹
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 サンメッセ株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

※本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

▼「日銀グランプリ」は日本銀行の金融教育充実に向けた取り組みの一つとして、学生の皆さんを対象に毎年行っています。今年度も応募論文の受け付けを開始しました。

テーマは「わが国の金融への提言」。わが国の金融に関するものであれば、どのように設定していただいても構いません。多くの学生の皆さんからの斬新な提言をお待ちしています！

「第10回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 論文募集中！

(締め切り九月三十日)

▼日本銀行ホームページに専用コーナーを設け、概要、第一回から第九回までの決勝参加チームの作品全文および審査員講評等を紹介しています。また、第九回決勝大会の様様を収録した動画(三分程度)も配信しています。



【お問い合わせ・応募窓口】

日本銀行
情報サービス局
総務企画グループ
〇三―三二七―二四〇五
post:prd3@boj.or.jp

学生のための小論文・プレゼンテーションコンテスト



第10回 日銀グランプリ

～キャンパスからの提言～

日銀グランプリは、日本銀行が毎年開催している、学生の皆さんを対象とした金融分野の小論文・プレゼンテーションのコンテストです。多くの皆さんのご応募をお待ちしています！

課題「わが国の金融への提言」

- ◎応募資格：現在、大学(短大等を含む)に在籍の方(大学院生は除く)。2～4名1組のグループでご応募ください。
- ◎授賞内容：最優秀賞／1チーム(副賞：図書カード15万円)
優秀賞／2チーム(副賞：図書カード3万円)
特別賞／1チーム(副賞：図書カード3万円)

※応募の詳細は裏面の応募要項および日本銀行ホームページをご覧ください。

日本銀行ホームページには過去の決勝の様様(動画)、入賞論文や審査員の講評も掲載していますので、こちらもぜひご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/>

主催
日本銀行

締切
9/30
必着